

国文学研究

第七十八集

『冥報記』 崔彦武説話と『滑州明福寺新修浮図記』 『今昔物語集』

西園寺実氏の和歌

——『続後撰集』『続古今集』 入集歌を中心に——

仮名字体弁別意識瞥見

——伝二条為道・同為世筆古今集切の傍記を手がかりとして——

村瀬太乙『山陽遺稿』講義録

『風流』な文学者

——谷崎潤一郎「蘇東坡（三幕）」或は「湖上の詩人」論——

北園克衛のシウルレアリスム

——反復表現がもたらすもの——

井伏鱒二の文壇進出再考

——『三田文学』版「鯉」および「たま虫を見る」を視座として——

『神聖喜劇』における大前田軍曹像

——大西巨人旧蔵書調査の成果を踏まえて——

仮名遣書の系譜

〈書評〉

村井利彦著 『源氏物語追遙』 村井利彦著述集

野中哲照著 『後三年記の成立』 『後三年記詳註』

和田琢磨著 『太平記』 生成と表現世界

日高昭二著 『占領空間のなかの文学』 痕跡・寓意・差異

三田明弘	齊藤花	兼築信行	小財陽平	林茜茜	大川内夏樹	塩野加織	橋本あゆみ	今野真二	日保一雅	久保勇	日向一	佐藤泉	佐倉由泰	佐藤泉
11	1	24	36	50	62	75	88	102	116	120	125	129	125	129

中島国彦先生略年譜・主要著作目録
 新刊紹介 彙報 編集後記

『出雲国風土記』の出雲と越

伊藤 劍

——「天下」の創出——

平安中期における風俗歌「大鳥」の受容

山崎 薫

——「うつほ物語」「内侍のかみ」巻の唱和歌の解釈をめぐって——

『山路の露』の浮舟と和歌

横溝 博

——手習の君の継承をめぐって——

子規の短歌革新、その変転

田部 知季

——鉄幹子規不可並称説を視座として——

木賃宿という舞台、放浪者という存在

ブルナ・ルカーシユ

——小栗風葉「世間師」にみる実体験／読書体験の表現化——

「小品」という世界と漱石の表現

中島 国彦

——「永日小品」と「それから」にみる漱石の一九〇九年——

堀辰雄『美しい村』における「変化」

宮坂 康一

——作品及びブルウスト受容の「変化」——

二つの『蟬しぐれ』

高橋 敏夫

——本文の異同から創作意図を考える——

〈書評〉

十重田裕一著『岩波茂雄 低く暮らし、高く想ふ』

山岸 郁子

庄司達也・中沢弥・山岸郁子編『改造社のメディア戦略』

和田 敦彦

新刊紹介 彙報 編集後記